
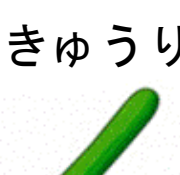

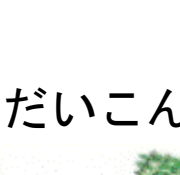




野菜の需給・価格動向レポート(平成26年7月7日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類		平年価格	6月の価格情報			7月 平年価格	生育及び価格の7月の見通し	
			指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額					
			上旬	中旬	下旬			
葉 茎 菜	<div>キャベツ</div> 	67.20	56	59	85	74.19	・入荷見込量：16,340t（100） ・主産地：群馬（64）、岩手（14）、茨城（6）	・群馬産は、朝晩の気温が低いため小玉傾向であるものの、気温の上昇と降雨により順調な出荷となり、平年並み若しくはやや多めの出荷の見込み。岩手産は、生育期が干ばつ傾向であったことから小玉傾向であるものの、概ね平年並みの出荷の見込み。 ・群馬産が平年並み若しくはやや多めの出荷が見込まれることから、価格は平年並み若しくは平年をやや下回る見込み。
		81.66	63	69	93	88.91	・入荷見込量：4,200t（96） ・主産地：群馬（55）、長野（28）	
	<div>ねぎ （関東は白ねぎ、 近畿は青ねぎ）</div> 	264.10	338	364	293	273.33	・入荷見込数量：4,200t（105） ・主産地：茨城（65）、千葉（14）、埼玉（6）、輸入（6）	・茨城産は、生育は順調で平年並みの出荷の見込み。千葉産は、生育は順調で引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・茨城産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年をやや上回っている価格は平年並みに推移する見込み。
		334.73	281	267	279	487.13	・入荷見込数量：240t（108） ・主産地：徳島（26）、香川（22）、奈良（13）、三重（12）、大阪（9）、高知（7）	
	<div>はくさい</div> 	67.05	56	72	93	58.82	・入荷見込量：5,830t（100） ・主産地：長野（90）	・長野産は、降雨と低温、曇天の影響でやや少なめの出荷となっているが、生育は概ね順調で、今後は気温の上昇とともに日照が増えれば回復することが見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。 ・長野産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を上回っている価格は平年並みに近づく見込み。
		77.96	77	78	90	62.79	・入荷見込量：2,700t（101） ・主産地：長野（99）	
	<div>ほうれんそう</div> 	376.10	340	426	538	583.95	・入荷見込量：880t（95） ・主産地：栃木（23）、群馬（23）、茨城（22）、岩手（13）	・群馬産は、梅雨の影響もなく生育は順調であることから平年並みの出荷の見込み。茨城産は、生育は概ね順調なことから、平年並みの出荷の見込み。栃木産は播種期の乾燥により生育にばつきが見られたものの、その後の降雨により回復傾向で平年並みの出荷の見込み。 ・現在価格は平年を上回っているが、7月以降は平年の価格水準が上がる時期となることもあり、群馬産、栃木産及び茨城産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年並みに推移する見込み。
		396.89	454	515	649	670.86	・入荷見込量：450t（95） ・主産地：岐阜（81）、北海道（9）	
	<div>レタス （結球）</div> 	120.13	103	121	121	120.13	・入荷見込量：9,630t（100） ・主産地：長野（85）、群馬（10）	・長野産は、曇雨天と低温により少なめの出荷となっているものの、今後は気温の上昇に伴い出荷が増えることが見込まれることから、徐々に平年並みの出荷となる見込み。群馬産は、現在の出荷は平年並みであるものの、雹の被害もあり総体的には平年をやや下回る出荷の見込み。 ・長野産で平年並みの出荷が見込まれるものの、群馬産が平年をやや下回る出荷と見込まれることから、価格は平年並み若しくは平年をやや上回って推移する見込み。
		125.61	110	124	121	125.61	・入荷見込量：2,100t（110） ・主産地：長野（99）	
	<div>たまねぎ</div> 	71.02	98	95	105	84.85	・入荷見込量：9,420t（95） ・主産地：佐賀（41）、兵庫（30）、輸入（9）、香川（7）	・佐賀産は、収穫は終了して今後は貯蔵品の出荷となる。全体としては平年並みの作柄であり、出荷は平年並みの見込み。兵庫産は、収穫は終了し貯蔵品の出荷となり平年並みの出荷の見込み。 ・佐賀産及び兵庫産は収穫が終了し計画的な出荷となっており、現在の価格水準で推移することが見込まれる。一方で平年価格が上昇する時期であることから平年を上回っている価格は、平年をやや上回って推移する見込み。
		71.02	101	96	103	84.85	・入荷見込量：3,000t（76） ・主産地：兵庫（71）、佐賀（26）	
果 菜	<div>きゅうり</div> 	189.84	203	290	252	210.69	・入荷見込量：7,590t（100） ・主産地：福島（38）、岩手（13）、秋田（11）、宮城（5）、埼玉（5）	・福島産は朝晩の気温が低いものの、特段の病害もなく生育は順調であることから、平年並みの出荷の見込み。岩手産は、生育は概ね順調なことから平年並みの出荷の見込み。秋田産は半促成ものは生育は順調で平年並みの出荷であり、露地物は乾燥気味で若干生育の遅れが見られるものの、総体的に平年並みの出荷の見込み。 ・平年並みの出荷が見込まれることから、価格は平年並みに推移する見込み。
		177.22	179	227	235	221.71	・入荷見込量：2,000t（91） ・主産地：福島（26）、愛媛（24）、北海道（21）、香川（6）	
	<div>トマト （大玉）</div> 	209.59	191	199	232	229.51	・入荷見込量：8,170t（100） ・主産地：青森（17）、栃木（11）、茨城（9）、千葉（9）、福島（7）、岩手（7）、秋田（7）、群馬（6）	・青森産は、5月に気温が高かったことで着色も進み生育は順調であり、平年並みの出荷の見込み。栃木産は、長雨の影響で病害虫の発生があるものの、出荷には影響はなく生育は順調であることから平年並みの出荷の見込み。茨城産は一部の産地で大雪の被害を受けやや少なめの出荷であるものの、総体的には平年並みの出荷の見込み。 ・産地の切り替え時期にあたり品薄感があり、現在の価格は高めに推移しているが、青森産、栃木産及び茨城産が平年並みの出荷が見込まれることから、価格は平年並みに近づく見込み。
		228.53	218	217	271	271.33	・入荷見込量：1,700t（88） ・主産地：北海道（43）、岐阜（12）、熊本（9）、石川（7）、岡山（7）、愛知（6）	
	<div>なす</div> 	297.07	321	338	340	209.55	・入荷見込量：4,170t（95） ・主産地：茨城（29）群馬（26）、栃木（25）、埼玉（5）	・茨城産は定植作業の遅れの影響が若干あるものの、全体的には生育は順調であることから平年並みの出荷の見込み。群馬産は、ハウスものから露地ものへと切り替る中で生育は順調であることから平年並みの出荷の見込み。栃木産は定植期の乾燥により生育に多少の遅れがあったが、気温の上昇に伴い出荷の増量が見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。 ・茨城産、群馬産及び栃木産は平年並みの出荷と見込まれことから、価格は平年並みに近づくものの平年をやや上回って推移する見込み。
		271.01	285	284	280	221.72	・入荷見込量：1,000t（94） ・主産地：山梨（18）、大阪（18）、徳島（18）、京都（10）、奈良（9）	
	<div>ピーマン</div> 	251.50	222	260	289	251.50	・入荷見込量：1,910t（100） ・主産地：茨城（63）、岩手（20）	・茨城産は、春もののお荷は7月が終盤期となることから、これから徐々に減少してくるが、生育は順調なことから平年並みの出荷の見込み。岩手産は生育は順調で平年並みの出荷の見込み。 ・茨城産及び岩手産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は平年並みに推移する見込み。
		266.65	189	218	279	266.65	・入荷見込量：480t（100） ・主産地：兵庫（19）、大分（13）、高知（11）、宮崎（10）、福島（9）、茨城（9）	
根 菜	<div>だいこん</div> 	86.59	63	70	81	94.60	・入荷見込量：8,950t（100） ・主産地：北海道（55）、青森（38）	・北海道産は目立った病害もなく品質は良好。一部のほ場において春先の干ばつで播種が出来なかった影響が懸念されるものの、総体的には平年並みの出荷の見込み。青森産は、播種時期の乾燥により発芽率が低かったものの、その後の適温適雨により生育は順調で平年並みの出荷の見込み。 ・北海道産及び青森産の出荷が平年並みと見込まれることから、平年を下回っている価格は平年並みに推移する見込み。
		94.24	66	79	88	100.39	・入荷見込量：3,000t（97） ・主産地：北海道（69）、岐阜（13）、青森（12）	
	<div>にんじん</div> 	133.01	134	125	114	133.01	・入荷見込量：6,750t（100） ・主産地：青森（42）、千葉（29）、北海道（24）、輸入（2）	・青森産は、先週から出荷が始まったところであるが、生育は順調で品質も良いことから、平年並みの出荷の見込み。千葉産は7月中旬で概ね出荷は終了の見込み。北海道産は春先の干ばつの影響で発芽率が低い産地もあったことから平年よりやや少ない出荷の見込み。 ・青森産の出荷が平年並みと見込まれ、北海道産の出荷は少なめと見込まれていることから、平年を下回っている価格は平年並みに近づく見込み。
		132.62	103	105	106	132.62	・入荷見込量：2,000t（90） ・主産地：青森（48）、北海道（29）、和歌山（12）、長崎（9）	



種類		6月の価格情報				7月 平均価格	生育及び価格の7月の見通し
		平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額				
			上旬	中旬	下旬		
いも		344.00	562	478	502	344.00	・入荷見込量：244t (-) ・主産地：宮崎 (62)、鹿児島 (23)、輸入 (8)  ・宮崎産は、肥大期に適度な降雨があったことから生育は順調で大玉傾向であることから ・平成よりやや多めの出荷の見込み。鹿児島産は、現在ピークを迎えている離島からの出荷であるが、出荷のずれ込みの影響で平成よりやや多めの出荷の見込み。 ・宮崎産及び鹿児島産の出荷が平成よりやや多めと見込まれることから、平年を上回っている価格は、平成並みに近づく見込み。
		347.90	575	497	600	347.90	
		131.80	120	118	116	101.61	・茨城産は生育は順調であることから平成並みの出荷の見込み。千葉産は圃場により品質の格差はあるものの、平成並みの出荷の見込み。静岡産は、生育は順調であることからピークを過ぎ徐々に数量は減少していくものの、平成並みの出荷の見込み。 ・茨城産、千葉産及び静岡産の出荷が平成並みと見込まれることから、現在価格は平年を下回っているが、7月以降は平年の価格水準が下がることもあり、平成並みで推移する見込み。
		131.80	129	118	120	101.61	

注：1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均で(消費税は除く。)保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)。  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。( )内は前年対比。さといもは前年実績。  
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。( )内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。  
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。  
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価額を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、5月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、5,146gで前年比98%、購入金額は、1,993円で同107%となった。

また、小売物価統計によると、6月のキャベツの小売価格は、141円で過去5か年平均比103%と過去5か年平均を上回った。レタスは、316円で同100%となった。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額（1人当たりの購入数量と購入金額）

年	過去5か年平均		平成25年		平成26年			
	購入数量（g）	購入金額（円）	購入数量（g）	購入金額（円）	購入数量（g）	前年比	購入金額（円）	前年比
1月	4,252	1,595	4,243	1,669	4,379	103	1,775	106
2月	4,463	1,624	4,553	1,652	4,646	102	1,742	105
3月	4,836	1,772	4,961	1,769	4,903	99	1,861	105
4月	4,747	1,838	5,019	1,809	4,871	97	1,887	104
5月	5,103	1,902	5,257	1,861	5,146	98	1,993	107
6月	5,092	1,885	5,249	1,897		0		0
7月	4,423	1,712	4,456	1,783		0		0
8月	4,324	1,713	4,422	1,741		0		0
9月	4,768	1,803	4,577	1,863		0		0
10月	5,238	1,861	5,225	1,932		0		0
11月	4,993	1,671	4,852	1,806		0		0
12月	5,142	1,882	5,152	2,093		0		0

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」注：過去5か年平均は、平成21～25年の平均。

主要野菜の小売価格（東京都都区部）

（単位：円/kg）

	キャベツ			レタス		
	過去5か年平均	平成26年	5か年比(%)	過去5か年平均	平成26年	5か年比(%)
1月	198	267	135	673	684	102
2月	211	234	111	605	578	95
3月	200	200	100	498	459	92
4月	248	206	83	469	381	81
5月	169	175	104	371	351	95
6月	137	141	103	317	316	100
7月	153		0	322		0
8月	140		0	415		0
9月	149		0	506		0
10月	158		0	449		0
11月	162		0	421		0
12月	162		0	521		0

資料：総務省「小売物価統計調査報告」

注：1 過去5か年平均は、平成21～25年の平均。

2 平成26年6月の値は、6月中旬の速報値。

3 野菜の輸入動向

5月の野菜の輸入を貿易統計で見ると、生鮮野菜は、前年同月比110%の7万4千トン、加工野菜は同96%の16万8千トン、野菜全体は、同100%の24万3千トンとなった。このうち中国産野菜合計は103%の11万7千トンとなった。  
加工野菜は前年を下回ったものの生鮮野菜が前年を大幅に上回ったことから、野菜全体では前年並みとなった。

野菜の輸入数量

(単位：トン、%)

区分	平成24年		平成25年		平成26年1～5月		平成26年5月	
		前年比		前年比		前年同期比		前年同月比
生鮮野菜	946,931	103	854,057	90	445,843	118	74,389	110
加工野菜	1,909,671	106	1,854,295	97	770,255	100	168,273	96
野菜合計	2,856,601	105	2,708,352	95	1,216,097	106	242,663	100
うち中国産野菜合計	1,458,418	103	1,415,901	97	595,186	107	117,161	103
中国産シェア	51		52		49		48	

資料：ベジ探（原資料）財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入数量

(単位：トン、%)

品目	輸入先	平成25年5月(A)	平成26年5月(B)	(B)/(A)
たまねぎ	合計	17,104	27,018	158
	中国	14,035	23,912	170
	ニュージーランド	1,470	2,183	149
にんじん	合計	5,508	5,349	97
	中国	4,853	4,953	102
	ニュージーランド	504	227	45
ねぎ	合計	4,379	4,292	98
	中国	4,360	4,277	98

資料：農林水産省「植物防疫統計」注：平成26年5月は、速報値。

4 トピック ― 家庭におけるサラダの消費について ―

7月6日は、歌人の俵万智さんの大ヒットした同名の歌集(昭和62年)の刊行が契機となり、『サラダ記念日』とされている。そこで、今回は最近のサラダ消費の特徴を紹介する。

サラダの一人当たりの家計支出額「家計調査」(総務省)の調理食品に分類)を、平成15年と平成25年で比較すると、二人以上世帯、単身世帯ともに大幅に増加している。

また、年齢階層別に見ると、二人以上世帯では、以前より支出額が多い50歳以上で大きく増加している。さらに単身世帯では、支出額が多い59才以下に加えて、60歳以上も大きく増加し、その水準は二人以上世帯の約2倍である。

地域別に見ると、関東、近畿等の大都市圏に加えて、北陸、中国、東北等の地方圏でも大きく増加し、全国的な広がりがみられる。

調理食品のサラダにはパスタ、海藻等が主体のものも含むが、野菜主体のサラダや調理用カット野菜についても、当機構のカット野菜小売販売動向調査(平成24年、小売店舗の顧客千人当たりのPOSデータ)によれば、平成21年度から24年度の間に、それぞれ1.6倍、2.2倍に増加している。

このように、世帯や年齢、地域を問わず、サラダ消費が伸びており、鮮度の良さや美味しさを最大限活かした国産野菜の原料供給体制の強化が待ち望まれている。

※家計調査の「サラダ」とは、商品名にサラダと標記される食品が集計対象である(総務省統計局から聴き取り)。

一人当たりのサラダの家計支出額（二人以上世帯、単身世帯）

世帯タイプ	平成15年 (円)	平成25年 (円)
二人以上世帯	約900	約1250
単身世帯	約2900	約3600

世帯主年齢階層別の一人当たりサラダの家計支出額（二人以上世帯）

年齢階層	平成15年 (円)	平成25年 (円)
～29歳	約500	約780
30～39歳	約580	約720
40～49歳	約850	約920
50～59歳	約950	約1400
60～69歳	約1050	約1420
70歳～	約1200	約1480

単身世帯の年齢階層別の一人当たりサラダの家計支出額

年齢階層	平成15年 (円)	平成25年 (円)
～34歳	約3300	約3800
35～59歳	約3900	約5000
60歳～	約1800	約2800

地域別の一人当たりサラダの家計支出額

地域	平成15年 (円)	平成25年 (円)
北海道	約650	約920
東北	約750	約1120
関東	約1120	約1450
北陸	約820	約1280
東海	約1000	約1050
近畿	約880	約1250
中国	約600	約1000
四国	約620	約950
九州	約550	約780
沖縄	約380	約650

資料：総務省「家計調査報告」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 前川、河原、斎藤、鈴木 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。  
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。  
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\\_report.html](http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html) に掲載しています。